

シンポジウム・チュートリアル企画

趣旨：

日本生活支援工学会では、「将来ビジョン検討委員会」において学会発足時のミッションが再確認され、これまでの学会 10 年の歩みを顧みたと、平成 23 年 10 月に今後 10 年の学会の発展を見据えたより具体的なミッションの提言として、ミッション検討タスクフォースから報告書として発信された。平成 24 年度の大会においては、このミッション検討 TF 提言を受けて、この学会の方向性を反映した企画を構成したいと考え、このたび大会企画としてシンポジウムを大会期間中に開催することになった。

展開すべきミッション検討 TF 提言内容は、

- ①社会に対する専門学術団体窓口
- ②異なる専門学術分野間の連携
- ③生活支援工学の体系化と教育・資格制度

であるが、この中で②の異分野間連携を基本に置きつつ、学会が、学術専門家の間で議論を閉ざすのではなく、①の社会への窓口たること、すなわち、介護や医療の実態を適正に把握し、実証試験による評価や現場の意見を尊重して、福祉・医用工学にそれらを反映すること、さらにこのような地道な努力の積み重ねにより③体系化を行うことが肝要である。

そこで今回の第 12 回日本生活支援工学大会では、本学会のアイデンティティを十分意識して企画化を試みる。とりわけ、最も本質的に重要であると理解されていながら、それでいてなかなか容易に達成できない生活支援工学のスキームは、分野横断的な学術知見に基づいて、ユーザや中間ユーザ、臨床研究者の意見を取り入れつつ、いかに社会のニーズを形にするかという議論である。

以上から、福祉・医療現場での有用性をいかに尊重しながら開発してきたかの実例を、この分野で先駆的主導的に活躍しておられる先達にご報告頂く場をシンポジウムとして設け、機器の果たすべき役割と開発の方向性を示して頂き、今後の課題について実際の実例を交えながら議論する。また、とくに次世代の生活支援工学分野を担う気鋭の研究開発者を対象として、現場に横たわる課題をいかに整理し方策を講じるか、あるいは基礎を重視しいかに応用にマッチする技術に仕上げるか、という観点から、実証試験に向かう上で重要な要素技術について、専門の先生方にチュートリアルなご講演を頂くことにした。

諏訪 基（会長）

鎌田 実（理事）

高木宗谷（理事）

山田陽滋（理事，文責）